

1. スマートメーター導入拡大ビジョンの策定

- ▶ 「大阪市水道局経営戦略（2018～2027）」のICT施策の実施計画として「大阪市水道局ICT計画」を平成30年3月に策定。コロナ禍の経験を機に内容を見直し、ICTの徹底活用による**水道DXの推進**を掲げ、取組を実施。
- ▶ 水道スマートメーターの導入は水道DX推進の重要施策の一つとして、導入効果の創出や課題解決に向けた**当面5か年の具体的取組みとその後の方向性**をとりまとめ、「スマートメーター導入拡大ビジョン」として新たに策定。

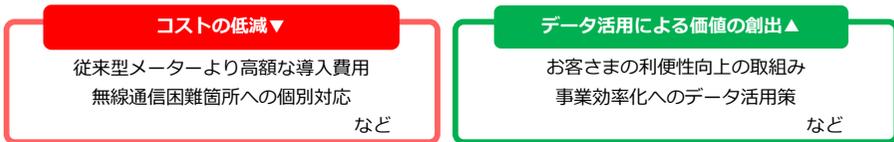
2. めざす姿 ～水道スマートメーターのある社会～



概ね2030年代初頭から市域全域へのスマートメーター設置を進め、**2030年代の全戸導入**をめざす

3. 大阪市の現状と市域全域への導入に向けた課題

- ▶ 平成31年4月より、G20を機に南港咲洲地区に先行導入し、遠隔自動検針実施（81か所）
- ▶ 今後の導入拡大に向けては、**コストの低減**や**データ活用による価値の創出**が課題
- ▶ 電力・ガス事業者など他事業体との連携についても併せて検討



4. 当面5年間の短期の取組 ～導入効果の創出～

- お客さまサービスの向上**
お客さまが水道使用量をWeb上で確認できるシステムを構築、将来的に水道スマートメーターデータの「見える化」につなげる。
・漏水や蛇口の閉め忘れ発見
・安否確認サービス
など新たなビジネス創出に寄与
- 料金請求の効率化・業務システム最適化**
従来のアナログベースの**業務プロセスのDX化**を推進。合わせて、業務システムの最適化やメーターデータ管理システム（MDMS）の構築に取り組む。
- 配水運用への活用**
先行導入エリアにおいて、スマートメーターデータの**配水運用への活用**を検討。
夢洲・舞洲地区
漏水検知の精度検証
住之江区・住吉区の一部エリア
大口需要家の水使用が配水管水圧に与える影響検証
- スマートシティへの貢献**
国勢調査や住民基本台帳など従来の統計情報では得られない**リアルタイムな人の動態の可視化**によりオープンデータへの利活用を検討。



5. 当面5年間の短期の取組 ～導入に向けた課題解決～

- (1) 導入コストの削減
 - ① **メーター等の仕様共通化**
型式や各部寸法、通信方式などの各仕様の共通化を検討
 - 期待される効果>
 - 仕様の共通化
汎用性の高いメーターの市場を構築
→価格競争の促進により、コストを低減
 - 主要各部の寸法等を統一化
メーター取付時等の作業効率性の向上に寄与
 - ② **他事業者との連携の可能性**
(共同検針や付加価値の創出)
 - 先行してスマートメーター導入が進む電力・ガス事業者との連携による効率的な検針や新たな付加価値・サービスの創出の可能性を検討
- (2) パートナーシップの推進
 - ① **他都市・民間事業者との連携の取組**
 - ・東京都、横浜市との3都市連携
 - ・A-Smartプロジェクト（国、他都市、民間）
 - ② **官民連携による共同研究の実施**
令和3～4年度(予定)
最適なMDMS（メータデータ管理システム）の検討
 - 電子式メーター
 - 通信機（NCC）を接続しスマートメーター化
 - 無線式メーター
 - 旧既式メーターに番号印取と遠隔検針を両立させてスマートメーター化
 - データ管理プラットフォーム（MDMS）
 - LoRaWAN
- (3) 既存市街地への先行導入による検証
 - <咲洲地区> 令和元年度～
G20のセキュリティ対策等の観点から、平成31年4月に咲洲地区の官公庁、ホテル、展示場、小学校など63施設にスマートメーター81個を設置。
 - <大阪駅周辺、夢洲・舞洲地区ほか> 令和3年度～
令和3年度から、大阪駅周辺の高層ビル、夢洲・舞洲地区の施設などに169個のスマートメーターを順次設置予定。

6. 当面5年間以降の中長期の取組 ～市域全域への導入拡大に向けて

2030年代の全戸導入に向けて、2020年代は費用対効果等を鑑みて、大口需要家が立地する臨海部やスマートシティのモデルエリアを皮切りに、大口径メーターから順次導入を進めつつ、2030年代初頭からの小口径メーターへの展開を検討する。

